

平成29年4月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年3月10日

上場会社名 フリービット株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3843 URL <http://www.freebit.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 伸明
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員グループ経営管理本部長 (氏名) 和田 育子 TEL 03-5459-0522
 四半期報告書提出予定日 平成29年3月13日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年4月期第3四半期の連結業績（平成28年5月1日～平成29年1月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年4月期第3四半期	27,180	33.1	1,384	9.1	1,073	18.6	252	△26.0
28年4月期第3四半期	20,419	29.5	1,269	51.8	904	24.3	341	△57.2

(注) 包括利益 29年4月期第3四半期 514百万円 (△21.2%) 28年4月期第3四半期 653百万円 (△31.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年4月期第3四半期	11.37	11.36
28年4月期第3四半期	15.23	15.21

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年4月期第3四半期	23,282	11,779	43.2
28年4月期	21,931	11,164	45.5

(参考) 自己資本 29年4月期第3四半期 10,053百万円 28年4月期 9,972百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年4月期	-	0.00	-	7.00	7.00
29年4月期	-	0.00	-	-	-
29年4月期（予想）	-	-	-	7.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成29年4月期の連結業績予想（平成28年5月1日～平成29年4月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	35,000	23.3	2,000	5.1	1,500	13.4	250	△54.8	11.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

詳細は、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社 （社名）株式会社フリービットEPARKヘルスケア、除外 1社 （社名）

(注) 詳細は、添付資料P. 5「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 5「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年4月期3Q	23,414,000株	28年4月期	23,414,000株
② 期末自己株式数	29年4月期3Q	1,218,800株	28年4月期	1,218,800株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年4月期3Q	22,195,200株	28年4月期3Q	22,398,118株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 1) 本資料に記載されている予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。
- 2) 四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手若しくは閲覧の方法
 - ・ 四半期決算補足説明資料は、TDnetで同日開示を行うとともに当社ウェブサイトにも掲載する予定です。
 - ・ 四半期決算説明会内容は、その記録動画を当社ウェブサイトにも速やかに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

「経営成績に関する説明」において用いる主な用語の説明は、以下のとおりであります。

用語	説明
Health Tech	“健康×IT”によりヘルスケア領域に変革を起こし、次世代の健康管理メソッドを創出していくもの
IoT (Internet of Things)	モノに通信機能を持たせてモノ同士が相互通信することにより、ヒトが介在することなく自動認識や自動制御などが行える仕組み
不動産Tech	“不動産×IT”により不動産業界に新しいサービスの潮流を起こし、ITを用いて不動産関連サービスを進化させていくもの
MVNO (Mobile Virtual Network Operator)	大手モバイル通信キャリア等から回線を借りて独自の通信事業を行なう事業者
MVNE (Mobile Virtual Network Enabler)	MVNOへの参入支援を行う会社
SIM (Subscriber Identity Module)	モバイル端末でデータ通信や音声通話などを行うために必要なICチップカード
アドテクノロジー	「テクノロジーを駆使した広告」の総称で、主にインターネット広告における配信技術や広告流通の技術のこと
アドネットワーク	インターネットメディアへの広告配信を効率的に行うシステム
アフィリエイト	Webページ等の広告を経由して、広告主のサイトで会員登録や商品購入をした場合にリンク元の媒体運営者へ報酬が支払われる仕組み
SNS (Social Networking Service)	人と人とのつながりを促進・支援するコミュニティ形態のインターネットサービス
光コラボレーションモデル	東日本電信電話株式会社及び西日本電信電話株式会社が提供するフレッツ光の卸サービス
クラウド	ソフトウェア等をネットワーク越しに利用者に提供する仕組みやそのデータが蓄積・運用されているデータセンターやサーバー群の総称
ISP (Internet Service Provider)	通信回線を通じてPC等をインターネットに接続する事業者
パブリッククラウド	クラウドのうち、インターネットから誰でも利用できるようなサービスやシステム
プライベートクラウド	クラウドのうち、大企業などが自社ネットワーク上で利用するためのサービスやシステム

当社グループは、中期事業方針『SiLK VISION 2020』を掲げ、2020年（平成32年）4月期に連結売上高500億円、連結営業利益50億円の達成を目指し、「成長領域に注力した新分野への進出と継続的発展」を図っていくとの戦略のもと、モバイル事業・アドテクノロジー事業の継続成長及び生活領域（“Health Tech”、“IoT”、“不動産Tech”）の中長期での事業拡大に努めています。

当第3四半期連結累計期間においても上記方針に則り事業を推進した結果、成長領域を中心に順調に推移し、売上高、営業利益、経常利益が前年同期に比べて増加しました。

継続成長事業の1つと位置付けているモバイル事業では、MVNO市場の拡大が続いていることを受け、当社がMVNEとして提供するMVNO支援パッケージサービス「freebit MVNO Pack」を採用する事業者が増加し、また、採用事業者による獲得エンドユーザー数も増加しました。これに伴い、同事業者向けのSIM出荷枚数の増加傾向が続くことを見据え、通信帯域や通信設備の増強も行いました。また、連結子会社の株式会社ドリーム・トレイン・インターネットでは、MVNOサービス「DTI SIM」の更なるユーザー数拡大を目的に、ユーザーニーズを機敏に捉えた新プランの投入やキャンペーン施策を講じることで他社との差別化を図りました。

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（以下、「CCC」）との合弁会社で、当社の持分法適用関連会社であるトーンモバイル株式会社（以下、「トーンモバイル」）では、端末やアプリの開発からユーザーサポートまでを一気通貫で提供することを特長とした独自のスマートフォンサービス「TONE」を、CCCグループが全国展開する「TSUTAYA」や「蔦屋書店」といった店舗網での取扱いを拡大させました。

日本は、主要国の中でMVNO契約数比率が高いとは言えない一方で、その契約数成長率は最も高い環境にあります。そのため、他の主要国と同等の水準までMVNOが普及する可能性が高いと考えられていますので、当社グループにおいても引き続きモバイル事業は拡大していくと想定しています。

もう1つの継続成長事業と位置付けているアドテクノロジー事業では、連結子会社の株式会社フルスピードがアドテクノロジー関連サービスとインターネットマーケティング関連サービスの提供に努めており、特に、広告運用統合プラットフォーム「AdMatrix」やスマートフォン向け動画アドネットワーク「PolymorphicAds」等の提供に注力しました。また、同じく連結子会社である株式会社フォービットでは、アフィリエイト・サービス・プロバイダーとして独自のアフィリエイトサービス「アフィリエイトB」の提供やその利便性の向上に尽力したことで、以前より優位性を築いている業界へのサービス提供のみならず、これまでの安定した実績の積み上げが評価されたことにより他の業界へのサービス提供も拡大し、引き続き、事業規模、収益とも大きく拡大しました。

新分野への進出を視野に入れている「生活革命」領域においては、“Health Tech(ヘルステック)”における中長期的な事業拡大を目的に、株式会社EPARKヘルスケア(現 株式会社フリービットEPARKヘルスケア)を連結子会社化し、当社グループの有する技術力や事業リソースを有効的に活用することで事業拡大が見込める薬局向けソリューションサービスの提供を開始しました。

以上の結果、売上高は27,180,239千円(前年同期比33.1%増)、営業利益は1,384,866千円(前年同期比9.1%増)、経常利益は1,073,402千円(前年同期比18.6%増)となりました。なお、親会社株主に帰属する四半期純利益については、法人税等調整額増加等の影響により252,355千円(前年同期比26.0%減)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、薬局向けソリューションサービスを開始したことにより「ヘルステック事業」を新たな報告セグメントとして設け、区分しております。

① ブロードバンド事業

スマートフォンやタブレット端末といった高機能モバイルデバイスの普及に伴って、宅内Wi-Fi環境を通じた動画視聴、ゲーム等のリッチコンテンツやSNSの利用の増加により固定回線網の原価は高止まりしたものの、集合住宅向けインターネットサービスが順調に推移したことに加え、「光コラボレーションモデル」関連サービスによるユーザー獲得数が増加しました。

以上の結果、売上高は7,486,971千円(前年同期比0.7%増)、セグメント利益は1,261,603千円(前年同期比0.9%増)となりました。

② モバイル事業

MVNO支援パッケージサービス「freebit MVNO Pack」の採用事業者(MVNO)が増加するとともに、採用事業者によるエンドユーザーの獲得数も増加しました。そして、同サービスの採用事業者の1社であるトーンモバイルには、同社専用スマートフォン端末である「TONE m15」を納入しました。また、株式会社NTTドコモとの顧客管理業務システムのオンライン連携により作業効率の向上を図ったことで、より一層、競争力のある価格でのサービス提供が可能となりました。

エンドユーザー向けMVNO SIMサービス「DTI SIM」においては、新プランの投入やキャンペーン施策を講じることで競合他社との差別化を図り、更なるユーザー数拡大に努めました。

以上の結果、売上高は大幅に増加し6,942,200千円(前年同期比113.7%増)となりました。なお、これまで以上にSIM出荷枚数が増加することを見据えて通信帯域や通信設備の増強を行ったことにより、セグメント損失は212,462千円(前年同期は96,617千円のセグメント損失)となりました。

③ アドテクノロジー事業

独自のアドテクノロジー関連サービスである広告運用統合プラットフォーム「AdMatrix」やスマートフォン向け動画アドネットワーク「PolymorphicAds」等の提供に注力し、また、インターネットマーケティング関連のサービスにおいても、既存サービスの拡大に加えてSNS等の運用広告サービスの提供を積極的に展開しました。

また、アフィリエイトサービスにおいては、得意とする業界だけの伸張に止まらず、新たな業界での提供も順調に広がったことで、引き続き、事業規模、収益規模とも拡大しました。

以上の結果、売上高が11,390,870千円(前年同期比34.2%増)、セグメント利益が947,144千円(前年同期比44.6%増)となり、前年同期に比べ大きく増加しました。

④ クラウド事業

当社がISP向けアウトソーシングサービスで培ってきた運営ノウハウを活かして開発した「フリービットクラウド」は、高レベルでのセキュリティ性やサービス稼働における信頼性は勿論、高い処理性能などが求められるシステムにも容易に対応できるクラウドサービスとして、パブリッククラウドである「フリービットクラウド VDC PRO」、プライベートクラウドである「フリービットクラウド VDC Private HOSTED」、「フリービットクラウド VDC Private ON-PREMISES」等が評価を得てきました。そして、そのパブリッククラウドとプライベートクラウドを組み合わせ、高いセキュリティと柔軟なインフラ環境を優れたコストパフォーマンスでの提供を実現したハイブリッドクラウドについても高い評価を獲得しました。

以上の結果、売上高は1,474,565千円（前年同期比0.6%減）、セグメント利益は118,839千円（前年同期比395.4%増）となりました。

⑤ ヘルステック事業

当第3四半期連結累計期間において、薬局向けソリューションサービスを開始したことにより、新たに当報告セグメントを設け、区分することとしました。

その結果、売上高は105,794千円、セグメント損失は168,783千円となりました。

なお、前連結会計年度には当報告セグメントに区分すべきサービスが存在しなかったため、前年同期との比較は行っていません。

セグメント別売上高及びセグメント損益

(単位：千円)

区分	売上高	セグメント利益 又は損失(△)
ブロードバンド事業	7,486,971	1,261,603
モバイル事業	6,942,200	△212,462
アドテクノロジー事業	11,390,870	947,144
クラウド事業	1,474,565	118,839
ヘルステック事業	105,794	△168,783
その他	46,225	△61,431
調整額	△266,388	△500,043
合計	27,180,239	1,384,866

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は23,282,451千円となり、前連結会計年度末と比べて1,350,832千円増加しました。これは主として、商品及び製品が483,155千円減少したものの、現金及び預金が117,558千円、受取手形及び売掛金が142,803千円、のれんが1,012,637千円、ソフトウェアが663,525千円増加したことによるものです。

負債合計は11,502,708千円となり、前連結会計年度末と比べて735,887千円増加しました。これは主として、支払手形及び買掛金が222,467千円、社債が391,000千円増加したことによるものです。

純資産合計は、非支配株主持分が増加したこと等により、前連結会計年度末と比べて614,945千円増加の11,779,743千円となり、この結果、自己資本比率は43.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年4月期の通期の連結業績予想につきましては、当第3四半期の業績が概ね想定通り推移しているため、平成28年6月10日に公表しました数値から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第2四半期連結会計期間より、株式会社フリービットEPARKヘルスケアについては株式を取得し子会社化したため、連結の範囲に含めております。なお、同社は平成29年2月6日をもって株式会社EPARKヘルスケアより商号を変更しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,911,008	8,028,567
受取手形及び売掛金	4,507,544	4,650,347
商品及び製品	714,634	231,479
仕掛品	27,446	15,343
原材料及び貯蔵品	3,789	3,451
その他	3,000,772	2,418,588
貸倒引当金	△175,692	△209,536
流動資産合計	15,989,503	15,138,241
固定資産		
有形固定資産	1,709,700	1,622,993
無形固定資産		
のれん	1,708,263	2,720,901
ソフトウェア	540,373	1,203,899
その他	144,299	539,041
無形固定資産合計	2,392,937	4,463,842
投資その他の資産		
投資有価証券	1,067,181	766,127
差入保証金	359,294	456,498
その他	730,742	1,266,987
貸倒引当金	△317,740	△432,240
投資その他の資産合計	1,839,477	2,057,373
固定資産合計	5,942,114	8,144,209
資産合計	21,931,618	23,282,451
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	53,113	275,580
短期借入金	1,422,000	1,400,000
1年内返済予定の長期借入金	1,175,478	1,104,029
未払金	4,842,855	4,655,155
未払法人税等	460,631	310,711
引当金	106,343	207,985
その他	989,368	912,186
流動負債合計	9,049,790	8,865,649
固定負債		
社債	—	391,000
長期借入金	1,069,031	1,121,178
退職給付に係る負債	18,913	21,700
その他	629,085	1,103,180
固定負債合計	1,717,029	2,637,058
負債合計	10,766,820	11,502,708

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年1月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,514,185	4,514,185
資本剰余金	3,142,810	3,137,892
利益剰余金	3,066,602	3,163,590
自己株式	△752,710	△752,710
株主資本合計	9,970,887	10,062,958
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△6,155	△17,591
繰延ヘッジ損益	△21,752	—
為替換算調整勘定	29,289	7,741
その他の包括利益累計額合計	1,381	△9,850
新株予約権	1,608	1,608
非支配株主持分	1,190,920	1,725,026
純資産合計	11,164,798	11,779,743
負債純資産合計	21,931,618	23,282,451

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成28年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成29年1月31日)
売上高	20,419,244	27,180,239
売上原価	14,483,488	20,700,887
売上総利益	5,935,755	6,479,351
販売費及び一般管理費	4,665,866	5,094,485
営業利益	1,269,888	1,384,866
営業外収益		
受取利息	1,481	1,900
受取配当金	1,077	1,617
投資有価証券評価益	—	32,476
その他	9,528	5,868
営業外収益合計	12,087	41,862
営業外費用		
支払利息	33,070	36,900
持分法による投資損失	325,690	289,132
その他	18,247	27,294
営業外費用合計	377,008	353,327
経常利益	904,968	1,073,402
特別利益		
固定資産売却益	45,114	—
投資有価証券売却益	2,152	68,227
関係会社清算益	—	84,839
事業譲渡益	133,500	—
その他	257	—
特別利益合計	181,024	153,066
特別損失		
固定資産除却損	9,903	1,753
事務所移転費用	—	857
通信設備除却費用負担金	—	43,630
特別損失合計	9,903	46,240
税金等調整前四半期純利益	1,076,088	1,180,228
法人税、住民税及び事業税	442,822	460,290
法人税等調整額	△14,808	187,793
法人税等合計	428,013	648,083
四半期純利益	648,074	532,144
非支配株主に帰属する四半期純利益	306,981	279,789
親会社株主に帰属する四半期純利益	341,093	252,355

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成28年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成29年1月31日)
四半期純利益	648,074	532,144
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,777	△18,109
繰延ヘッジ損益	2,619	21,752
為替換算調整勘定	△1,165	2,569
持分法適用会社に対する持分相当額	△1,075	△23,420
その他の包括利益合計	5,157	△17,207
四半期包括利益	653,232	514,936
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	340,341	241,123
非支配株主に係る四半期包括利益	312,890	273,813

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第3四半期連結累計期間（自 平成27年5月1日 至 平成28年1月31日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1
	ブロードバンド 事業	モバイル事業	アドテクノロジー 事業	クラウド事業	
売上高					
外部顧客への売上高	7,278,238	3,247,823	8,457,097	1,370,224	65,859
セグメント間の内部売上高 又は振替高	156,045	1,318	33,176	113,742	465
計	7,434,283	3,249,142	8,490,273	1,483,967	66,325
セグメント利益又は損失(△)	1,250,106	△96,617	654,813	23,987	△109,249

(単位：千円)

	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
売上高			
外部顧客への売上高	20,419,244	—	20,419,244
セグメント間の内部売上高 又は振替高	304,748	△304,748	—
計	20,723,992	△304,748	20,419,244
セグメント利益又は損失(△)	1,723,040	△453,151	1,269,888

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸等を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△453,151千円には、のれん償却額△464,327千円及びその他の連結調整額11,175千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成28年5月1日 至平成29年1月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				
	ブロードバンド事業	モバイル事業	アドテクノロジー事業	クラウド事業	ヘルステック事業
売上高					
外部顧客への売上高	7,341,911	6,940,704	11,368,657	1,377,767	105,794
セグメント間の内部売上高又は振替高	145,060	1,496	22,213	96,797	—
計	7,486,971	6,942,200	11,390,870	1,474,565	105,794
セグメント利益又は損失（△）	1,261,603	△212,462	947,144	118,839	△168,783

（単位：千円）

	その他 （注）1	合計	調整額 （注）2	四半期連結損益 計算書計上額 （注）3
売上高				
外部顧客への売上高	45,404	27,180,239	—	27,180,239
セグメント間の内部売上高又は振替高	821	266,388	△266,388	—
計	46,225	27,446,627	△266,388	27,180,239
セグメント利益又は損失（△）	△61,431	1,884,909	△500,043	1,384,866

（注）1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失（△）の調整額△500,043千円には、のれん償却額△512,230千円及びその他の連結調整額12,187千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

薬局向けソリューションサービスを行う株式会社EPARKヘルスケアを連結の範囲に含め新たな事業を開始したため、当第3四半期連結会計期間より、報告セグメントとして「ヘルステック事業」を追加しております。なお、同社は平成29年2月6日をもって株式会社フリービットEPARKヘルスケアに商号を変更しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

当社は、株式会社EPARKヘルスケアについて株式を取得し子会社化したため、連結の範囲に含めております。なお、当該事象によりのれんが1,550,161千円増加しております。